

第3学年3組 国語科学習指導案

1. 単元名 大事なことをたしかめよう
「すがたをかえる大豆」(説明文) 国分 牧衛
「食べ物がかせになろう 本で調べる」
2. 単元目標
身近な食べ物についての知識を得るとともに興味を広げようとする。【関心・意欲・態度】
中心となる語や文、段落相互の關係に注意して文章を読むことができる。【読むこと】
調べて書く必要のある事柄を収集したり選択したりし、書こうとすることの中心を明確にしなが
ら、段落と段落の続き方に注意して書くことができる。【書くこと】
3. 「ひびき合う子どもたち」を目指すための指導の工夫

研究課題...自ら進んで学習に関わろうとする意欲や態度の育成 手立て...子どもの知的好奇心をもとに、子どもと教師で行う授業作り

(1) 単元と指導について

教材について

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年「C読むこと」の内容「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の關係を考え、文章を正しく読むこと」「オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要となるところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと」を指導するのに適した単元である。

本教材は、大豆という身近な食べ物に焦点を当て、加工されて「さまざまなすがた(食品)」になることについて書いたものである。全体は「初め・中・終わり」の三つに分けられる。「中」の部分では、「おいしく食べるくふう」について段落が分かれ、大豆がどのような方法でどんな食品になるのかを説明している。紹介されているものは、子どもたちにとって、普段口にしてしている身近な食品である。それが大豆からできていたことを、意外性をもって知ることになるだろう。「大豆からできている食品は他にないかな」「他の食べ物でも姿を変えるものがあるのかな」などの疑問をもち、調べてみたいという意欲を引き出すことのできる教材でもある。その意欲は、後の「食べ物がかせになろう」で説明文を書く学習活動につながっていく。本教材では、本文の内容を読み取るだけでなく、説明文の書かれ方に注目したい。「初め・中・終わり」に分けてわかりやすく書かれていること、筆者の伝えたいことが初めや終わりにはっきりと書かれていること、話題提示の形で読み手に興味をもたせるような書き方、接続語や指示語が効果的に使われていることなどに気づかせたい。

指導について

「読み」と「表現」の關連を意図した単元を構成する。

「ありの行列」で行った、読み取ったことをもとにマンガを描くという活動では、どの子も楽しんで取り組んでおり、わかりやすく伝えることを意識して表現することができた。本単元においても、教材文を読むことによって自分の表現がより豊かになったり、表現することで読みが深まったりすることを実感させたい。

単元を構成するにあたって、段落の構造や文章構成、要旨や要点、筆者が伝えたいこと、表現技法等、教材文を通して学ばせたいことをあげた上で、どんな「読み」や表現活動ができるかを考えた。表現活動は、新聞作りや本作りを取り入れた。アンケートをとったところ、これまでの活動をふり返って、多くの子が楽しんで活動できたと答えており、学習意欲を高められると考えたからである。

一次・二次では、「丸ごとの読みと詳細な読み」「主観的な読みと客観的な読み」をバランスよく組み込むようにした。新聞を作る活動では、いくつの記事にわけて書けるかを検討することで、大豆をおいしく食べるための工夫について、段落にわけて詳しく書かれていることに気づかせる。見出しを書いたり段落ごと短い文にまとめたりして、内容を読み取っていく。互いの表現を読み合う場面も設けた。これにより、それぞれの表現の違いに気づき、そのよさを発見できるだろう。自分の表現にいかそうとする子もいるかもしれな

い。ここに、「ひびき合う子どもたち」の姿が見られると考える。

三次では、比べ読みを行う。「すぐに説明文を書きたい」と考える子もいるだろうが、四次での表現活動をより豊かに行うために、もう一つの説明文を読ませたい。ここで扱う「ミラクルミルク」(中西敏夫著 学校図書)という教材文には、牛乳がいろいろな食品に「変身する」ことが書かれている。食品について書かれている点や加工される点などが「すがたをかえる大豆」と似ている。一方で、書きぶりは少し違う。「似ているけれどなんだかちょっと違うぞ」というところに、子どもたちの興味・関心がひきつけられ、知的好奇心を喚起することができるのではないかと考える。「初め・中・終わり」の文章構成や話題提示の文が出てくること、筆者の感想・意見がはっきり書かれていることは共通していて、子どもたちはそれに気づき、説明文を書くときに意識しようとするだろう。接続詞については、「すがたをかえる大豆」が「次に」「また」「さらに」などさまざまなのに対し、「ミラクルミルク」は、「一つ目のミラクルは」「二つ目の」と同じような書き出しになっている。内容についても、「すがたをかえる大豆」が食品の作り方を説明しているのに対し、「ミラクルミルク」はどのようにしてできたかという食品の歴史を説明している。この二つの文章の共通点や相違点を挙げていく中で、自分が説明文を書くときに真似したいところについても考えさせる。これは、二つの説明文の書き方のよさを見つける学習でもある。自分が興味をもった書き方を選んで活用できるようにすれば、表現がより豊かになるのではないかと考え、比べ読みを行うことにした。ここでの学習活動はまず、一人読みをして気づいたことや考えたことをワークシートにまとめる。そしてそれをもとに友だちと考えを交流させる。子どもたちは、自分の考えと比べて同じだとか、一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあるということに気づくだろう。自分にはなかった考え方を、友だちの意見を聞いて知ることの楽しさを味わえれば、これが「ひびき合い」の姿といえるのではないかと考える。また、ともに「大事なことをたしかめながら読む」教材文である。前時までに学習してきたことをいかしながら「ミラクルミルク」を読み、文章構成や表現技法についての理解をより確実なものにしたい。

四次では説明文を書く。個々に題材を決め、図書資料から情報を選び出し、これまでの読みの学習をいかして文章を書く。一人ひとりが書いた説明文をまとめて一冊の本にする予定である。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物について書かれた読み物や図鑑などを興味をもって読もうとしている。 ・伝えたいことが明確になるように、段落相互の関係に注意して書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、大豆を食べる工夫を正しく読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食べ物について、情報を収集したり取捨選択したりしながら、段落に分けて文章にまとめている。

5. 指導計画 全17時間(本時11時間目)

次	時	ねらいと学習活動	評価規準と評価方法
一	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 教材に興味をもち、学習の見通しをもつことができる。 ・全文を通読し、大まかな内容をとらえる。ブックトークを聞く。 ・形式段落を確認する。音読の練習をする。 ・新出漢字の練習をする。語句の確認をする。 	<p>【関】大豆をおいしく食べる工夫について、関心をもって本文を読もうとしている。(観察・発言)</p>
二	1 2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> 説明文で書き方を学ぶ。 ・「問いと答え」(話題提示)「事実と意見・感想」を見つける。「初め・中・終わり」の文章構成をとらえる。 ・おいしく食べる工夫と食品を整理し、段落ごとに小見出しをつける。 ・新聞を作り、互いに読み合う。 	<p>【関】説明文に関心をもって本文を読もうとしている。(発言・観察)</p> <p>【話・聞】自分の考えをわかりやすく話している。(発言)</p> <p>【読】大豆を食べる工夫について、一つひとつの段落を正しく読み取っている。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落の構造を読み取り、「初め・中・終わり」の大きなまとまりを理解している。(ワークシート・発言) ・指示語のはたらきを理解している。(プリント・発言) <p>【書】新聞にわかりやすくまとめている。(新聞)</p>
三	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 比べ読みをして、学習内容の理解を深める。 ・「ミラクルミルク」を通読し、大まかな内容をとらえる。語句の確認をする。 ・「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」の共通点や相違点、説明文を書くときに真似したいところをワークシートに書く。 ・二つの文章の共通点や相違点、真似したいところを話し合う。本時 	<p>【関】説明文の書かれ方に関心をもって本文を読もうとしている。(発言・観察)</p> <p>【話・聞】自分の考えをわかりやすく話したり、友だちの考えと自分の考えを比べながら聞いたりしている。(発言・観察)</p> <p>【読】中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、内容を正しく読み取っている。(ワークシート・発言)</p>
四	1 2 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 情報を集めて説明文を書く。 ・「食べものはかせになろう」を読み、調べたことを文章にまとめるまでの流れをつかむ。 ・題材を決め、図書資料を選んで情報カードを書く。 ・文章を書く。 ・推敲し、清書する。 ・文章をまとめ、本を作る。 ・本を読み合い、感想を書く。 	<p>【関】調べたい食べ物を決め、必要な図書資料を探して読もうとしている。(ワークシート・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報カードを関連づけてまとめ、ある程度のまとまりにわけようとしている。(情報カード・観察) <p>【書】大事なことを情報カードに書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報カードを整理し、調べたいことを事柄ごとに段落にわけて書いている。(プリント)

6. 本時について

(1) 目標

- ・「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」を比べながら読んで気づいたことや考えたことを話し合い、説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解することができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点(評価)
<p>1. 前時までの学習をふり返る。</p> <p>2. 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」の、にているところとちがうところ、まねしたいところはどこだろう。</p> </div> <p>3. 本文を黙読し、自分の考えを確認する。</p> <p>4. 話し合う。</p> <p>にているところ・ちがうところ 大きなまとまりにすると(文章構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも「初め・中・終わり」にわかれている。 ・「ミラクルミルク」は初めが長くて、終わりが短い。 <p>問いと答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも問いの文がある。 ・問いの文の出る場所が違う。 <p>事実と意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実がたくさん、意見や感想は初めや終わりに出てくる。 <p>題名はどこから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも初めと終わりに出てくる。 <p>つなぎの言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」は「次に」「また」など書き方がいろいろ。 ・「ミラクルミルク」は「一つめの」「二つめの」など同じ感じで書かれている。 <p>話の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも食品について書いている。すがたをかえる話。 ・「すがたをかえる大豆」は食品の作り方について書いている。「ミラクルミルク」は食品ができたわけについても書いている。 <p>まねしたいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め・中・終わり」にわけて書く。 ・問いと答えを書く。 ・初めや終わりに筆者の感想・意見を入れる。 ・つなぎの言葉や「こそあど言葉」を使う。 ・作り方を中心に書く。 ・歴史を中心に書く。 <p>5. 本時のふり返りをする。</p> <p>6. 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習の流れを掲示しておく。 ・共通点、相違点、自分が説明文を書くときに真似したいところについて発表することを伝える。 ・自分の考えを確認するための時間を設ける。 ・全体で話し合う前に、隣どうして考えを交流させる。 ・隣との交流の中で「なるほど」と思ったことも発表してよいことを伝える。 ・友だちの意見につなげて発言させる。 ・共通点や相違点ができるように板書をする。また、話し合われている内容をその都度確認しながら板書にまとめる。 ・さまざまな意見を出させることで、一人ひとりの感じ方には違いがあるということに気づかせる。 ・「どちらの教材文のどんなところを真似したいのか」をはっきりさせ、できれば理由もつけて話すよう伝える。 ・「まねしたいところ」を出させることで、それぞれの教材文のよさに気づかせる。 <p>【読】「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」を比べながら読んで気づいたことや考えたことを話し合い、説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解している。(発言・プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントに自分の考えをまとめさせる。 ・説明文を書くために題材を決めることを伝える。

(3) 本時の視点

- ・児童が意欲をもって説明文を読むために、課題の設定は適切であったか。
- ・「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」を比べながら読んで気づいたことや考えたことを話し合い、説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解することができたか。
- ・話し合いを通して、自分の表現にいかそうという意欲をもつことができたか。

(4) 本時の評価基準

	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
読む	自分の表現にいかそうという意欲をもち、二つの説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解したことを発言したり書いたりしている。	二つの説明文教材を比べながら読んで気づいたことなどを話し合い、文章構成や表現技法のよさについて理解したことを発言したり書いたりしている。	友だちの意見を聞いたり板書を見たりして、わかったことをまとめるようにし、説明文の書かれ方を理解できるようにする。

(2) 展開(下線が引いてあるところは変更点です。)

学習活動	指導上の留意点(評価)
<p>1. 前時までの学習をふり返る。</p> <p>2. 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」の、にているところとちがうところ、まねしたいところはどこだろう。</p> </div> <p>3. 本文を黙読し、自分の考えを確認する。</p> <p>4. 話し合う。</p> <p>にているところ・ちがうところ 大きなまとまりにすると(文章構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも「初め・中・終わり」にわかれている。 ・「ミラクルミルク」は初めが長くて、終わりが短い。 <p>問いと答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも問いの文がある。 ・問いの文の出る場所が違う。 <p>事実と意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実がたくさん、意見や感想は初めや終わりに出てくる。 <p>題名はどこから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも初めと終わりに出てくる。 <p>つなぎの言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」は「次に」「また」など書き方がいろいろ。 ・「ミラクルミルク」は「一つめの」「二つめの」など同じ感じで書かれている。 <p>話の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも食品について書いている。すがたをかえる話。 ・「すがたをかえる大豆」は食品の作り方について書いている。「ミラクルミルク」は食品ができたわけについても書いている。 <p>まねしたいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め・中・終わり」にわけて書く。 ・問いと答えを書く。 ・初めや終わりに筆者の感想・意見を入れる。 ・つなぎの言葉や「こそあど言葉」を使う。 ・作り方を中心に書く。 ・歴史を中心に書く。 <p>5. 本時のふり返りをする。</p> <p>6. 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習の流れを掲示しておく。 ・共通点、相違点、自分が説明文を書くときに真似したいところについて発表することを伝える。 ・自分の考えを確認するための時間を設ける。 ・全体で話し合う前に、隣どうして考えを交流させる。 ・隣との交流の中で「なるほど」と思ったことも発表してよいことを伝える。 ・友だちの意見につなげて発言させる。 ・共通点や相違点ができるように板書をする。また、話し合われている内容をその都度確認しながら板書にまとめる。 ・さまざまな意見を出させることで、一人ひとりの感じ方には違いがあるということに気づかせる。 ・「どちらの教材文のどんなところを真似したいのか」をはっきりさせ、できれば理由もつけて話すよう伝える。 ・「まねしたいところ」を出させることで、それぞれの教材文のよさに気づかせる。 ・<u>説明文を書くときのポイントをみんなで確かめる。</u> <p>【読】「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」を比べながら読んで気づいたことや考えたことを話し合い、説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解している。(発言・プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>説明文を書くときのポイントをプリントにまとめさせる。</u> ・説明文を書くために題材を決めることを伝える。

(2) 本時の視点

- ・児童が意欲をもって説明文を読むために、課題の設定は適切であったか。
- ・「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」を比べながら読んで気づいたことや考えたことを話し合い、説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解することができたか。
- ・話し合いを通して、自分の表現にいかそうという意欲をもつことができたか。

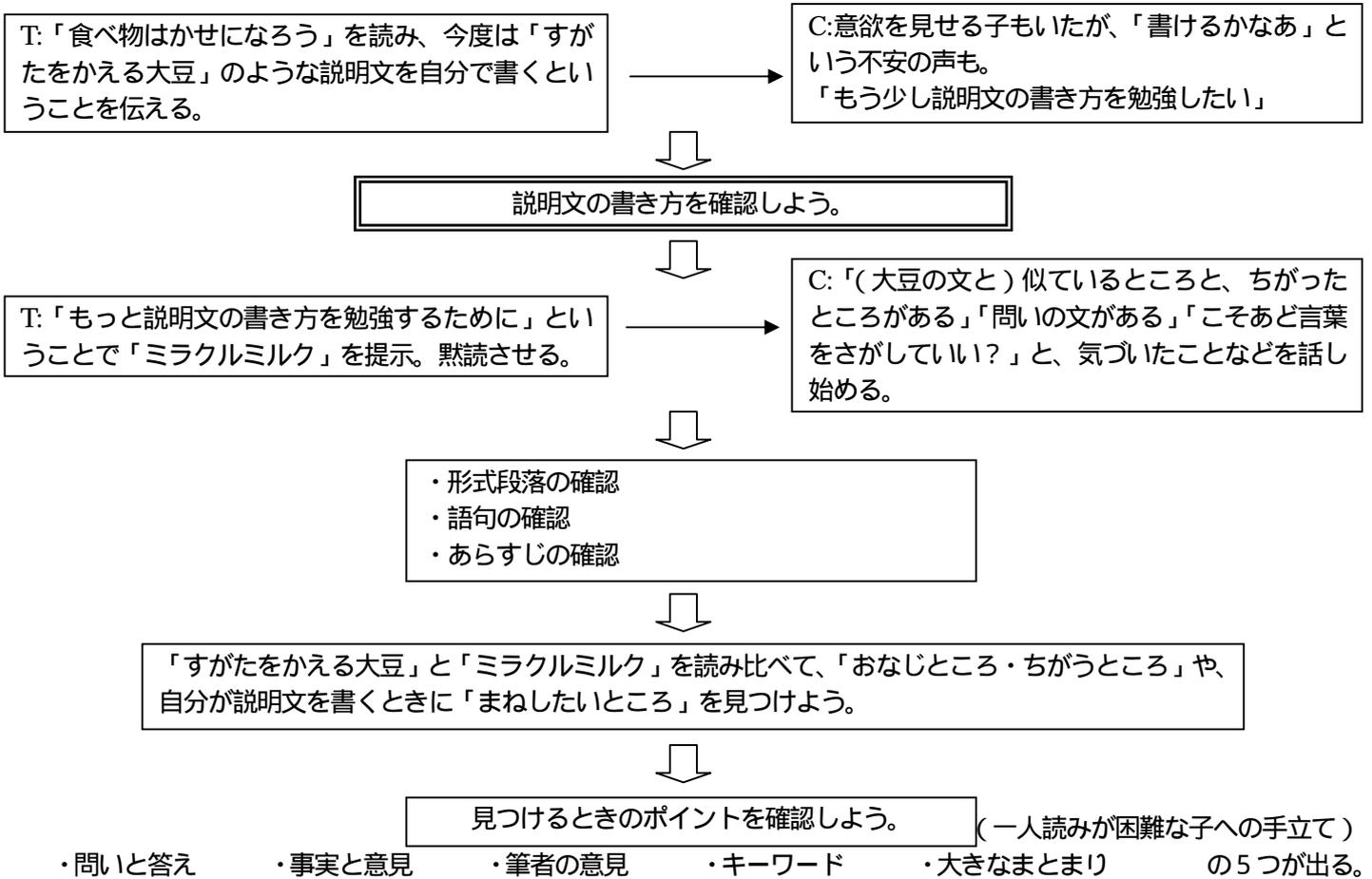
(4) 本時の評価基準

	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
読む	自分の表現にいかそうという意欲をもち、二つの説明文教材の文章構成や表現技法のよさについて理解したことを発言したり書いたりしている。	二つの説明文教材を比べながら読んで気づいたことなどを話し合い、文章構成や表現技法のよさについて理解したことを発言したり書いたりしている。	友だちの意見を聞いたり板書を見たりして、わかったことをまとめるようにし、説明文の書かれ方を理解できるようにする。

8 実践を終えて

本文を読んだ子どもたちは、「みんなで食べ物が変身する本をつくりたい」という願いをもち、学習に取り組み始めた。第二次では、本文を読み、説明文の文章構成や表現技法について学習した。第三次の流れは以下の通りである。

1時間目 「ミラクルミルク」を通読し、大まかな内容をとらえる。語句の確認をする。



2時間目 「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」の共通点や相違点、説明文を書くときに真似したいところをワークシートに書く。

【一人読みの様子と指導について】

- ・見つけるときのポイントにそって読んでいた。
- ・「ミラクルミルク」の問いの文を見つけれない子がいた。次時の話し合いの中で気づかせる。
- ・大豆とミルクの違いについて書いている子がいたので、書き方の違いに注目するよう指導した。
- ・共通点と相違点は見つけやすいようだった。「まねしたいところ」は見つけた共通点や相違点の中から「自分が説明文を書くときに参考にしたいこと」を選んで書いてもよいことを伝えた。

第三次は、第一・二次をうけ、第四次につなげるための学習である。本時では、説明文の文章構成や表現技法についての理解をより深めるために、説明文を書くときのポイントの一つひとつ丁寧におさえるようにした。子どもたちは、自分が発見したことをみんなに話したいという気持ちをもって意欲的に発表していた。友だちの話をよく聞き、理解して、自分が説明文を書くときのポイントにしようとして進んでメモをとる子もいた。第四次の活動では、書きたいことが同じ友だちと協力して本で調べ、説明文を一人ひとりが書いて読み合うようにした。互いにアドバイスをしたり、感想を伝え合ったりして、楽しんで読む姿が見られた。

説明文の読み方をはじめに学んだことが、子どもたちに読みの力をつけることになり、読み取ったことを友だちに伝えたり、説明文を書いたりする意欲や力にもつながったと思う。教える中で子どもが力を身につけたり興味をもったりする。それが子どもの願いになり、オリジナルになっていくという。「子どもの思い」を大切にしながら「教師の思い」も明確にして単元をつくっていきたい。